トランジション・ファイナンスにかかる フォローアップガイダンス ～資金調達者とのより良い対話に向けて～ 概要

2023年6月

フォローアップガイダンスの位置づけ

金融機関がトランジション・ファイナンス等を通じて実経済の脱炭素化に資する取組を促進するためには、資金調達者による信頼性が高いトランジション戦略の策定・開示とともに、資金供給者が資金調達者との対話を通じてその着実な実行を支援・促進することが重要。

フォローアップガイダンスは、トランジション・ファイナンスの信頼性と実効性を向上することを目的として、特に、資金供給後のトランジション戦略の着実な実行と企業価値向上への貢献を担保するために、金融機関向けに示した手引きである。

＜トランジション・ファイナンス関連の既存ツールと本ガイダンスの関係性＞

グリーンファイナンス、サステナビリティ・リンク・ボンド/ローンに関する国内向けガイドライン	グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン ／ グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン（トランジション・ファイナンス基本指針に特段記載していない資金調達プロセスや個別商品に関するガイドライン）		
トランジション・ファイナンスに関する国内向け指針	クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針（トランジションの4要素：①戦略とガバナンス、②マテリアリティ、③科学的根拠、④透明性）		
組成	調達	**調達後**	
GHG多排出産業のカーボンニュートラル実現に向けた具体的な移行の道筋を示す参考資料	分野別技術ロードマップ	**トランジション・ファイナンスにかかる フォローアップガイダンス**	

フォローアップガイダンスのポイント

資金供給者と資金調達者の関係

- トランジション・ファイナンスのフォローアップにあたっては、資金供給者と資金調達者が対立構造にあるのではなく、**双方の信頼関係を醸成し、脱炭素化に向けた次の適切な資金調達につなげていくための対話**を目指すことが重要

読み手に期待すること

- 幅広い資金供給者が想定読者になるが、特に**債券投資家**に発行体との対話の重要性・必要性を訴求
- トランジション・ファイナンスの信頼性・実効性を高めるという目的を鑑み、資金供給者には**フォローアップの実績について積極的に発信**することを期待

トランジションは「動的」に捉える

- 企業によるトランジションの取組は、**その時点で最適な状況判断**のもとでカーボンニュートラルという野心的な目標に向かい、トランジション技術等に対し投資を続けることであり、**動的に捉える**ことが必要
- フォローアップにおいては、**事業環境の変化等を踏まえた上で**、その時点においてトランジションの取組が**ベストエフォート**であることを確認することが重要

実務者向けの手引き

- フォローアップ時の**確認事項をチェックボックス形式で一覧化**
- **分野別技術ロードマップのポイントを要約**して付録。またフォローアップする企業や個別業界だけでなく、**関連業界を俯瞰的に理解するためのポイントを整理**
- 債権投資家向けに**ボンドにおけるフォローアップの実践方法**を掲載

フォローアップガイダンスの構成

章立て		主な記載内容
序章	本書の目的等	• トランジション・ファイナンスの実行後に焦点を当て、脱炭素化に向けた取組（企業のトランジション）を促進し、トランジション・ファイナンスの信頼性と実効性の向上を目的とする。 • 想定読者は、幅広い資金供給者が想定読者になるが、特に債券投資家に発行体との対話の重要性・必要性を訴求。 • より債券投資家にとって実践的な内容となるように構成。
	本書の構成	• 2部構成およびAppendixで構成。 • 第1章ではフォローアップの定義と目的および基本的な考え方を説明、第2章にてフォローアップの際の実施事項やポイントをフォローアップの流れに沿って整理し、具体的なフォローアップのイメージができるよう想定される事業環境の変化をケーススタディとして掲載。
本章 第1章	フォローアップの定義と 基本的な考え方	• 定義：トランジション・ファイナンスの動的な性格に鑑み、資金調達者と資金供給者が、ファイナンス実行後の事後的な環境変化を踏まえて、定期的に進捗状況の確認や今後の進展のあり方等について対話することを指す。 • 企業のトランジション（ネットゼロへの移行）の取組とは、その時点で最適な状況判断のもとで、カーボンニュートラルという野心的な目標に向かってトランジション技術等に対して投資を続けることである。 • トランジションの取組は動的に捉える必要があることから、フォローアップにおいては、事業環境の変化等を踏まえた上で、その時点においてトランジションの取組がベストエフォートであることを資金調達者との対話により確認することが重要。 • フォローアップ時に参考となる材料、留意事項（アセットの違い、資金使途特定型/不特定型、業界特性）について記載。
本章 第2章	**調達時** トランジション戦略等の認識の確認・共有	• 企業が掲げるトランジション戦略やその前提となる業界特性等について、資金調達者・供給者の相互認識を確認・共有する。
	フォローアップ時 事業環境の変化を踏まえた、戦略・目標・対象事業に関する取組と今後の方針の確認	• 資金調達者の取組状況を確認し、将来的な方針について双方の認識を合わせるための対話を行う際のポイントを記載。 • 確認の対象となるのは主に資金調達者の戦略・目標・対象事業。資金供給者は当該実績が適切に開示されているかを確認。 • 次に事業環境の変化を踏まえ、これまでの実績や今後の取組について共通認識を醸成するための対話を行う。 • フォローアップ時の留意ポイントとして、「開示における競争上の観点」「一過性の事業環境変化に伴う影響」「GHG排出量の削減経路」「資金調達者の取組と今後の方針に重点を置いた確認」について記載。
補足	Appendix	**Appendix 1** フォローアップに向けた事前確認事項および、フォローアップ時の確認事項とポイント **Appendix 2** 債券投資家向け ボンドにおけるフォローアップの実践方法 **Appendix 3** 資金供給者が留意すべき業界特性

＋

◆ケーススタディ◆

- **ケース①** 政策の変更等による影響
- **ケース②** インフラ整備状況等による影響
- **ケース③** 新技術の台頭による影響
- **ケース④** 需要の増減による影響
- **ケース⑤** 取引先の方針変化による影響
- **ケース⑥** 自然災害等による影響
- **ケース⑦** 事業再編等による影響